airiti

DOI:10.6205/jpllat.38.201512.02

村上春樹男性嫉妒物語「木野」中蛇代表的「兩義性」
——建構多重層次小說結構之世界——

曾　秋桂
淡江大學日本語文學系教授

摘要

截止目前，村上春樹最新短篇小說集《沒有女人的男人們》(2014.4 文藝春秋出版)是最令人能嗅出濃濃夏目漱石氣息的作品集。除了作品中讀得出漱石的《三四郎》、《こころ》、《彼岸過迄》、《行人》的影子之外，連「木野」主角木野出外旅行的方向，也是跟漱石離鄉背井同樣的方位。

特別是出現「兩義的」字彙最多的「木野」當中，有關扮演重要任務的蛇之「兩義性」的結構，若遵循デリダ所定義的「兩義性」來剖析的話，「木野」所擁有多重層次的小說結構，立即呈現。

「木野」作品中不僅巧妙導入古代的世界神話中的「兩義性」，又鋪陳入以嫉妒為主題的日本歌舞伎「蛇柳」。兩相襯托之下，上可追溯至與日本歌舞伎「蛇柳」有密切關聯的弘法大師(空海)的佛教中對於人性的認知，此可視為古層次。下可尋覓至漱石文學中的男人嫉妒物語，此可視為新層次。如此地一層鋪上一層地堆砌出多重層次小說結構。

為何村上春樹要將漱石相關元素放入其來創作呢？村上春樹本意在於透過如此的作為，讓「木野」蛻變成複雜的複雜多重層次小說結構的男人嫉妬物語，挑戰創作小說的高度技巧。且在此作品中超越時空展開與漱石文學的對話。

關鍵詞：「木野」、兩義性、蛇、歌舞伎「蛇柳」、漱石嫉妒物語

airiti

DOI:10.6205/jpllat.38.201512.02

村上春樹の男嫉妬物語「木野」の蛇の持つ「両義性」
――重層物語世界の構築へ向けて――

曾 秋桂
淡江大学日本語文学科教授

要旨

村上春樹の最新短篇小説集『女のいない男たち』(2014.4 文藝春秋)ほど漱石の影が色濃く感じられる作品はない。漱石の『三四郎』、『こころ』、『彼岸過迄』、『行人』以外に、「木野」の主人公木野が旅に出たルートも漱石の都落ちと同じ方向である。

特に「両義的」という言葉が頻出している「木野」の中で、重要な役割を果たしている蛇の「両義性」の構造について、デリダが定義した「両義性」に従って分析すると、「木野」が持つ重層的な物語世界がくっきりと見えてきた。

「木野」の物語は、世界的な古代神話に起源を持つ「両義性」を巧みに取り入れているばかりではなく、嫉妬を主題とした日本の歌舞伎「蛇柳」を対比させ、さらに遡って古層には「蛇柳」と深く関わった弘法大師の仏教的人間認識があり、新層には漱石文学の男の嫉妬物語があるというように変奏に変奏を重ねて作った重層物語の世界である。

漱石の関連要素を多く取り入れた村上春樹の営為は、「木野」を複雑な重層的構造を持つ男の嫉妬物語「木野」に置換し、小説の高度な技法を見せており、この作品には時空を超えて漱石文学と対話する村上春樹の真意が込められているに相違ない。

キーワード:「木野」、両義性、蛇、歌舞伎「蛇柳」、
漱石の嫉妬物語

airiti

DOI:10.6205/jpllat.38.201512.02

About the snake's "Ambiguity" in Haruki Murakami's man envy story "Kino": Essay for construction of the multilayer story world

Tseng, Chiu-kuei
Professor, Tamkang University, Taiwan

Abstract

Soseki's shadow is felt clearly in Haruki Murakami's latest short novel collection 'Onna no inai otokotachi' by me. Soseki's 'Sanshiro', 'Kokoro', 'Higansugimade', and 'Kojin' have appeared in these works. Moreover, the direction of route of which hero Kino of "Kino" went out to travel is equal to the provinces where Soseki went out.

This thesis analyzed the structure of "Ambiguity" around the snake that is playing an important role on "Kino" from the view point of "Ambiguity" that Jacques Derrida had defined. Then, the multilayer story world of "Kino" was clarified.

The story of "Kino" has skillfully taken "Ambiguity" with the origin in a worldwide ancient myth. This work takes Kabuki "Jyayanagi" of Japan that assumed envy to be a subject at the same time. In addition, this story has Buddhism recognition about human being which is deeply related "Jyayanagi" and Kobodaishi in stratum of old meaning in story. There is envy stories of man from Soseki literature in the stratum of a new meaning in the story. Thus, this work is the world of a multilayer story that makes variation in variation repeatedly.

The real intention of Haruki Murakami who talks with the Soseki literature exceeding the time-space is put in routines of Haruki Murakami who takes a lot of related elements from Soseki.

Keywords: "Kino", snake, Kabuki"Jyayanagi", Soseki, envy stories

airiti

村上春樹の男嫉妬物語「木野」の蛇の持つ「両義性」
――重層物語世界の構築へ向けて――

曾秋桂
淡江大学日本語文学科教授

1. はじめに

村上春樹の最新短篇小説『女のいない男たち』(2014.4 文藝春秋)に収められた小説の中で、「木野」1 篇だけに蛇と関連して「両義的」という言葉が頻出している。それを読むと、夏目漱石の『彼岸過迄』の有名な一幕が思い出される。それは『彼岸過迄』で、浪漫の冒険者森本から主人公敬太郎が貰った蛇の頭のある杖は、「自分の様な又他人の様な、長い様な又短い様、出る様な又這入る様なもの」(「停留所」十九 P89)と「両義的」説明がなされている。

村上春樹作品の中で、『女のいない男たち』ほど漱石の影が色濃く感じられる作品はない。明示的に『三四郎』、『こころ』[1]が登場しているばかりではなく、暗示的にも前述の『彼岸過迄』、『行人』[2]が隠されている。さらに「木野」の主人公木野が旅に出たルート(東京→四国→九州)は、大学卒業後の漱石が辿ったルートの方向(東京→四国→九州)とも一致している。これほど漱石との関連要素を多く取り入れた『女のいない男たち』における村上春樹の営為の解明を避けては、作品を読み解くことはできない。従って、本論文では、この「両義性」をキーワードに「木野」を考察し、「木野」の蛇の持つ「両義性」の構造及び漱石の関連要素を多く取り入れた村上春樹の

[1] 第 4 篇の「シェエラザード」に「夏目漱石の『こころ』」と明記された以外、第 6 篇の「女のいない男たち」の第 1 人称視点による過去と現在との間に行き来するような語り方も『こころ』に類似している。

[2]『行人』にある「妾なんか丁度親の手で植付けられた鉢植のやうなもので一遍植られたが最後、誰か來て動かして呉れない以上、とても動けやしません」(「塵勞」四 P640) と直が言った言葉は、「イエスタディ」で語り手「僕」が友人木樽の彼女えりかを「植木鉢の中に収まらない強い植物のよう」(P98)だと述べたこととは、対照的である。

airiti

営為の究明を目的とする。

2.「両義性」の定義と「木野」への援用

本節では、「両義性」の定義と「木野」への援用の可否を考察してみよう。

2.1「両義性」の定義

まず、『大辞林』の辞書的な意味合いから見よう。「「両義性」(pharmakon)とは、「「毒」と「薬」の両義をもつ語。既成秩序から排除されるものや観念（思想）がもつ性格をいい、犠牲者は毒として排除され、同時に社会と共同体の結束の媒体となる」[3]とされている。

一方、東浩紀は、ジャック・デリダを論じた時、パルマコン(pharmakon)を「毒／薬の両方の意味を持つギリシャ語でデリダは決定不可能性と呼んでいます」[4](下線部分は論者による。以下同様。)と定義づけた。また、鈴村智久は、さらに明快に「Pharmakeia（パルマケイアー)、pharmakon（パルマコン）は隠喩ではなく、デリダにとって概念としての機能を持っている。(中略)それは「毒」でもあり、同時に「治療薬」でもあるという点で、あらゆる二項対立的な概念「～のあいだに」に位置する。例えば、善と悪、快と不快、内と外といった対立図式の極には位置しない。それは常にどちらでもあるのだ」[5]と的を射た説明をしている。このように、デリダの説に従って解釈すれば、「両義性」とは、同じ薬が使いようにより、「毒薬」になる場合もあり、「治療薬」になる場合もあると同時に、常にどちらでもあるという決定不可能性の意味で用いられるという。

---

[3]http://www.weblio.jp/content/%E3%83%91%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%82%B3%E3%83%B3(2015 年 5 月 20 日閲覧)

[4] 東浩紀(1998)『存在論的、郵便的』新潮社

[5] 鈴村智久の批評空間「ソクラテスはなぜディアレクティケーを重視したのか？――ジャック・デリダ『散種』所収「プラトンのパルマケイアー」読解（２)」http://borges.blog118.fc2.com/blogentry1679.html(2015 年 5 月 21 日閲覧)

airiti

2.2 デリダが説く「両義性」の「木野」への援用

次にデリダが説く「両義性」を「木野」へ援用する可否を見てみよう。

「木野」には「両義性」という言葉が出たわけではないが、類似語として見ることが出来る「両義的」(P245)が見られる。それは殆ど伯母と木野の二人の間に限った話題である。蛇について、「古代神話の中では、蛇はよく人を導く役を果たしている。それは世界中のどこの神話でも不思議に共通していることなの。ただそれが良い方向なのか、悪い方向なのか、実際に導かれてみるまではわからない。というか多くの場合、それは善きものである同時に、悪しきものでもあるわけ」(P244)と伯母の説明を聞いた後、木野が最初に自ら「両義的」と述べた。木野の伯母も「蛇というのはもともと両義的な生き物なのよ」(P245)とその場で賛同を表した。その後、木野がセックスした火傷の女を思い出した時に、彼女が「やってくることを恐れ、同時に心の奥でそれを密かに求めてもいた」(P246)気持ちを表すために、再び「両義的」(P246)を使った。また熊本のホテルでノックされた時に、誰かからの訪問が「何より求めてきたことであり、同時に何より恐れてきたものである。(中略)両義的であるというのは結局のところ、両極の中間に空洞を抱え込むことなのだ」(P256)と認識を深めた。下線部分で強調した「両義的であるというのは結局のところ、両極の中間に空洞を抱え込むことなのだ」のように、デリダの説で言う二項対立的な概念「～のあいだに」に位置する対立的意味を同時に持つ決定不可能性を、「木野」にそのまま援用することは可能と言えよう。

3.「木野」に組み込まれた蛇の説―明示されたものと隠蔽されたもの

前述したように、「木野」の「両義的」な蛇の話題は、伯母と木

airiti

野の二人の間に限って出されている。伯母と木野がそれぞれ根拠とした蛇の説を以下のように見て見よう。

3.1「木野」に明示された伯母の蛇の説

伯母が用いた蛇に関する説は、作品中、NHK の「世界の神話を比較する番組」(P245)から情報を得たと明確に示されている。その NHK 教育番組とは、記録[6]は残されず、確定できなかったが、2010 年 4 月 17 日に再放送されたジョーゼフ・キャンベル『神話の力』の可能性が高い[7]と思われる。キャンベルの『神話の力』に収録された「内面への旅」では、確かに世界各地の神話における蛇の様々な形象がはっきりと書かれている[8]。一方、2015 年の年始に始まった「村上さんのところ」のネット上の意見交換コーナーでは、村上春樹がキャンベルの著作『生きるよすがとしての神話』、『神話の力』を挙げて、「キャンベルにはすごく教えられるところが大きかった。世界の神話に通底したものがあるのです」[9]と言っている。村上春樹の発言と照合して見ると、「木野」に書かれた伯母の蛇の説は、キャ

---

[6] 2015 年 5 月 15 日に NHK に直接に問い合わせたが、5 月 16 日に「通常、10 年から 20 年以上もの前の放送番組等につきましては、正直申しあげまして、担当者を探し当ててお問い合わせの件について尋ねるということは極めて困難と言わざるを得ません」と返事が来た。(問い合わせ番号 2124247_2124258)による。

[7] 「前から後から!」 http://fujikko92.exblog.jp/12494874(2015 年 5 月 15 日閲覧)。これより早い時期の 1994 年 1 月から 2 月まで放送された「海外ドキュメンタリー」にも、1996 年 6 月から 7 月まで放送された「知への旅」にもキャンベルの著作に関する話、例えばジョゼフ・キャンベル著・平田武靖・浅輪幸夫監訳(1984)『千の顔をもつ英雄上』人文書院、ジョゼフ・キャンベル著・飛田茂雄・古川奈々子・武舎るみ訳(1996)『生きるよすがとしての神話』角川書店、ジョゼフ・キャンベル著・飛田茂雄訳(1996)『時を超える神話』角川書店が出たらしい。

[8] ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤース著・飛田茂雄訳(2011・初 2010)『神話の力』早川書房 P115-119

[9] 「毎日新聞村上春樹報道」
http://sp.mainichi.jp/feature/news/20150501mog00m040004000c.html(2015 年 5 月 12 日閲覧)。ただし、5 月 15 日以後、閉鎖された。その後、2015 年 7 月に新潮社より『村上さんのところ』(473 通)と『村上さんのところ　コンプリート版』(3716 通を集めた電子ブック)が刊行された。

airiti

ンベル『神話の力』に由来する可能性が高く、その神話学の通り「蛇が人を導く」役割[10]を果たすと考えられよう。

3.2「木野」に隠蔽された歌舞伎十八番「蛇柳」

NHK の教育番組から「蛇が人を導く」という情報を得た伯母に勧められた木野は、その教育番組を高松のホテルで見たが、結局役立つ情報を得られないままであった。情報が手に入らなかった木野は、実際に 3 匹の蛇(「褐色の蛇」(P242)、「青みを帯びた蛇」(P243)、「黒みを帯びた蛇」(P243))を見た。しかも、この 3 匹とも「柳の木の下」(P242、P243)に姿を現した。このように、比喩表現とした蛇[11]以外に、蛇が出た時には必ず「柳」が伴っている、いわばペアとなって登場するという設定を見逃してはならない。

3.2.1 歌舞伎十八番の内の「蛇柳」の詳細

「蛇」が「柳」とペアで登場しなればならない理由を突き詰めると、恐らく歌舞伎十八番の内の「蛇柳」の導入によるからである。歌舞伎公式総合サイトによると、「蛇柳」は、霊木の精魂が起こす執着を描いた舞踊劇であり、「高野山奥の院にある霊木の蛇柳。弘法大師が法力により、災いをもたらす大蛇を柳に変えたと言われています。この蛇柳のもとに物の怪が現れて、仏法の妨げをなすことから、住僧定賢が退治するために現れます。定賢は、丹波の助太郎と出会

---

[10] 「毎日新聞村上春樹報道」
http://sp.mainichi.jp/feature/news/20150501mog00m040004000c.html(2015 年 5 月 12 日閲覧)。ただし、5 月 15 日以後、閉鎖された。

[11] 「獲物を前にした蛇のように」(P227)とあるように、比喩表現として「木野」のバーにやって来た小柄のやくざの様子を形容しているが、木野と性交した時に「女の長い舌が木野の喉の奥を探り、(後略)」(P236)と描かれた火傷の女の様子を、「唇を長い舌でゆっくりと舐めた。獲物を前にした蛇のように 」(P227)と似通わせて強調した所も注目すべきである。これより『スプートニクの恋人』(1999)での「草むらの中の無口の蛇のように」の比喩表現のほか、に単行本として刊行した『神の子どもたちがみな踊る』(2000)に収録された「タイランド」(P119、P112)では、別れた夫に対して 30 年間も持ち続けたさつきを名にした女主人公の恨みを「蛇」に投影した手法が先例として見られる。

airiti

いますが、助太郎は亡くなった妻への思いに狂い乱れ、ついには蛇柳の精魂へと姿を変えた」[12](網掛けが論者による。以下同様。)という。要するに、弘法大師が災いをもたらす大蛇を柳に変えて、蛇柳としたが、後に物の怪が現れ、仏教修行の邪魔をするから、僧定賢が退治に登場し、そこで死んだ妻への思いに狂い乱れた丹波の助太郎に出会ったが、ついに妻への執着で助太郎が姿を蛇柳と変えたのである。ここでは、災いと妻への未練が蛇柳に結びつけて描かれている。

また、『歌舞伎十八番:市川団十郎お家と狂言下』には、「高野山蛇柳　團十郎丹波の助太郎、道化の仕内、後に三勝が死霊のり移り、大薩摩主膳太夫浄るりにて嫉妬のあれ大当なり」[13]と記載されている。要するに、前の出典と同じく丹波の助太郎が登場するが、今度は焦点を助太郎がおどける仕打ちとして、三勝の死霊が乗り移り、大薩摩主膳太夫の浄瑠璃では大好評だった嫉妬の荒事に変えられたのである。このように、「蛇柳」の脚本は残っておらず、詳細な内容は定かではないが、少なくとも弘法大師が蛇を柳に変えたこと、妻への思いに狂い乱れた夫の存在、そして死霊がその体に乗り移り、嫉妬に荒れ狂う様子が重点として挙げられる。

3.2.2 時間的に見た「蛇柳」の上演と「木野」の刊行

ほとんど上演されなかった「蛇柳」は、近年では、「木野」の初出[14]時の 2014 年 2 月より半年前の 2013 年 8 月に、十一代目市川海老蔵が「柳がなぜ蛇に見えたのか、人間のその精神状態をお見せする芝居がつくれそうだ」[15]と述べ、舞踊劇として復活させて上演し

---

12 http://www.kabuki-bito.jp/theaters/kabukiza/2015/05/post_87-Highlight.html(2015 年 5 月 16 日閲覧)

13 日本国家図書館デジタルコレクションによる検索。久保田彦作編(1883)『歌舞伎十八番:市川団十郎お家と狂言下』紅英堂

14 2014 年 2 月に発行した『文藝春秋』2 月号に掲載された。

15 http://www.kabuki-bito.jp/news/2013/04/_1abkai.html 市川海老蔵の第 1

airiti

た。「蛇柳」の上演は多分村上春樹が「木野」を考案している時期と重なったかもしれないが、十一代目市川海老蔵が上演した「蛇柳」を見た的確な証拠を把握しない限り、何とも言えない。しかし、市川海老蔵の「蛇柳」の上演が「木野」の初出より時間的には先にあったことは確かである。

ここまで来て、「木野」に歌舞伎十八番「蛇柳」が隠蔽されたとは可能性を指摘することができる。しかし、確かかどうかはまだ明確には言えない。次に、「木野」に登場した不思議な人物カミタを傍線に、その可能性を探ってみよう。

3.2.3「木野」に登場した不思議な人物カミタを傍線に

蛇が出たことについて、木野が「何をすればいいのでしょう?」(P248)とカミタに助言を求めたが、カミタは、「偉いお坊さんに知り合いがいれば、お経をあげてもらい、家のまわりにお札を張ってもらってもいいでしょう。しかし、この時代、そんな人は簡単に見つかりません」(P248)と勧めた。その描写には理解し難い「この時代」に簡単に見つからない「偉いお坊さん」のことが出ている。そこで、歌舞伎「蛇柳」を引き合いに出して見れば、それは大蛇を柳に変えた「蛇柳」の典故にある、古き時代の「偉いお坊さん」弘法大師のことを髣髴させよう。

また、作品に3回も登場したカミタの正体だが、カミタが名を乗った時に、「神様の田んぼと書いて、カミタと言います。カンダではなく」(P226)と 4 回も強調されている[16]。また「この近くに住んでいます」(P225)及び「古くからこのあたりに住んでいます」(P249)

回自主公演 「ABKAI―えびかいー」(2015 年 5 月 20 日閲覧)では、「数年前、高野山にうかがった際に、実物の蛇柳の木を拝見して衝撃を受けたのです。柳がなぜ蛇に見えたのか、人間のその精神状態をお見せする芝居がつくれそうだ、そう思い、復活を手がけることにしました」と海老蔵が創作動機を明かした。

[16] もう 1 箇所「神様の田んぼと書きますかが、カンダではありません。古くからこのあたりに住んでいます」(P249)と名乗ったことがある。それ以外、木野が記憶した言葉(P222、P259)として提起された。

airiti

とカミタが打ち明けたこともある。さらに、店を遠く離れて熊本に来ている木野は、まだ「なんらかのかたちであの庭前の古い柳の木に結びついているのかもしれない、木野はふとそう思った。あの柳の木が自分を、そして小さな家を保護してくれていたのだ」(P259)と、カミタを柳に結び付けて考えている。以上の 3 箇所を手掛かりに総合的に考えた結果、カミタは古くから「根津美術館の裏手の路地の奥」(P218)にある店「木野」の近くにある「善福寺」に縁故のある柳の化身だと推定されよう。

「麻布山善福寺」[17]と言えば、元麻布にあり、歌舞伎「蛇柳」の典故と深く関わっている弘法大師が建立した寺のことである。境内には「柳の井戸」があり、その「柳の井戸」は、「弘法大師が鹿島大明神に祈願して柳の下に錫丈をつきたてたところ清水が湧き出し(後略)」[18]たと伝承されている。また関東大震災や昭和 20 年 4 月、5 月の空襲時にはこの井戸が多くの人に水を与えた[19]と伝わっている。この「柳の井戸」に関する伝説からは、店「木野」に最初に「青々としていた」(P213)「坊主頭」(P213)の姿を現したカミタが、木野が警戒したような「その筋の人間」(P213) と想像されるヤクザ等ではなく、寧ろ「善福寺」に縁故ある柳の化身と想定してもよい。また「柳の井戸」からは、弘法大師と旱魃が連想され、「雨も降ってないのに、また降り出そうな気配もないのに、丈の長い灰色のレインコートを着ていた」(P213)カミタの不可解な様子[20]にも、灰色の僧

---

[17] http://jin3.jp/otera/zenpukuji.htm によると、「天長元年 (824) 真言宗の開祖空海 (弘法大師) の創建と伝え、その規模を高野山にならったので新高野とも呼ばれ、関東屈指の霊場だった」という。(2015 年 5 月 21 日閲覧)。

[18] http://jin3.jp/otera/zenpukuji.htm(2015 年 5 月 21 日閲覧)

[19] http://deepazabu.com/m1/mukasi/mukasi.html「柳の井戸」に立てられた説明看板(昭和四十九年一月東京都港区教育委員会)による。(2015 年 5 月 24 日閲覧)

[20] 「レインコートの襟を立て」(P228)、「レインコートのポケットに両手を突っ込んでいた」(P248)とあるように、カミタの 3 回の登場に「レインコート」が伴っている。

airiti

侶服を纏った弘法大師が関連した「神泉苑の雨乞い」[21]の典故及び弘法水のイメージが交錯しているように感じられる。

このように、「木野」に登場した不思議な人物カミタは、店「木野」の近くにある「善福寺」に縁故ある柳の化身だと、その正体が推測できると、「木野」の蛇は弘法大師にちなんだ歌舞伎十八番「蛇柳」とも、決して縁遠いものではなく、寧ろ「木野」に東京に残る弘法大師の説話と歌舞伎「蛇柳」が隠蔽されたと言った方が適切であろう。

以上のように、蛇は明示された伯母の古代神話の蛇の説と、隠蔽されたものとしての弘法大師の説話と日本の歌舞伎「蛇柳」説の両方から、物語の重要な要素として「木野」に組み込まれていると言える。両者から見れば、「木野」に出た蛇は「人をよく導く」と言われる古代神話的なものであると同時に、歌舞伎「蛇柳」のような妻への思いと嫉妬を象徴するものでもある。いわば、世界的古代神話的なものと、日本歌舞伎的なものとの、どちらでもあるという決定不可能性を持った「両義的」なものだと言えよう。

4. 男の嫉妬物語として読む「木野」—「両義的」な蛇の帰趨

さらに進んで「両義的」な蛇が帰趨する所を見極めると、そこには男の嫉妬物語がある。一般的に不毛な心理だとされている嫉妬[22]を、岸田秀は「自分の所有するものを第三者に奪い取られたとき、

---

[21] http://www.koyasan.or.jp/shingonshu/kobodaishi.html「弘法大師の誕生と歴史」(2015 年 5 月 21 日閲覧)

[22] 例えば、作田啓一 (1981)『個人主義の運命—近代小説と社会学』岩波書店 P22 では、「通常の嫉妬あるいは羨慕の心理学は、ライヴァルには単にそれだけのマイナスの機能しか、すなわち主体の欲求充足を妨げる作用しか認めておりません」とある。また、漱石の男の嫉妬物語の名作と見られる『彼岸過迄』「須永の話」十六では、須永自身も嫉妬を不毛な心理だと認識しているためか、「僕は今日迄その理由を誰にも話さずにゐた」によって、恋いのライバルと想像した高木に対する嫉妬の一部始終を語り始めた。

airiti

または奪い取られそうになったとき、または奪い取られたのではないかと疑われるときの感情」[23]と定義している。それは火傷の女の連れ合いと木野の心理を十分に説明できる。火傷の女と話しを交わし、女の連れ合いの男に「疑念を含んだ冷やりとする目」(P231)で見られた所で、木野は「人間が抱く感情のうちで、おそらく嫉妬心とプライドくらいたちの悪いものはない」(P231)と男の嫉妬を摘発した。また、「そのどちらからも、再三ひどい目にあわされてきた。おれには何かしら人のそういう暗い部分を刺激するものがあるのかも知れない」(P231)と、今まで「嫉妬心とプライド」に翻弄された経験が何回もあった。ここでの「嫉妬心とプライド」を木野の今までの経験に照らしてみると、それは人生最大事の離婚にほかならない。木野は、妻と不倫相手のベッドシーンを目撃し、「彼女の形のよい乳房が下上に大きく揺れている」(P217)様子が強く目に焼き付けられた。旅に出た物語の結末近くでも、木野が再び「妻はかたちの良い乳房を激しく宙に揺らせて」(P261)とその記憶を蘇らせた。妻の身体性を「会社でいちばん親しくしていた同僚」(P217)に奪われたことにより、夫としての木野の持つプライドは当然ではあるが、それは妻の浮気現場の目撃で極めて深刻に傷付けられ、嫉妬心が燃え上がったであろう。その一端は、「夏の終わりに離婚」(P238)が成立した後、別れた妻が店「木野」にやってきた時の描写からも窺われる。当時妻の着た「青いワンピース」(P241)を見て、それを脱ぐと、「何が見えるのか」(P241)と妻の身体を妄想した木野だが、結局、「その身体はもう彼のものではない。それを見ることも、それに触れることもできない。彼ただ想像を働かせるしかない」(P241)と、語り手はプライドが傷付けられ、嫉妬心に燃える木野の無念さを代弁している。そして、熊本のホテルでは、「青いワンピースを着たか

[23] 岸田秀（1987)『嫉妬の時代』飛鳥新社 P203

airiti

つての妻の姿を思い浮かべた」(P260)木野は、記憶した妻の「青いワンピース」を通して、妻への身体性への無念さを再び蘇らせた。別れた妻への思いに狂い乱れて生じた木野の深い嫉妬と無念さは、まさに歌舞伎「蛇柳」の持つ主題と同様である。「両義的」な蛇が「木野」を男の嫉妬物語たらしめることが、ここで改めて示唆されている。

男の嫉妬物語として「木野」を読む場合、妻の身体性が奪われたベッドシーンの記憶から嫉妬物語が始まり、嫉妬を象徴する蛇が木野を旅に導き、その結果、その記憶を正面から見つめ、妻の温もりの記憶を力に、傷ついた自分を受け入れることで、最終的に嫉妬物語の完結を迎えた。「蛇柳」に因んだ柳の化身と思われるカミタが言った「記憶は何かと力になります」から、男の嫉妬物語である「木野」の主人公木野は、村上春樹が願ったが如く[24]、再生する兆しが生まれたのである。

5.漱石の嫉妬物語群への共感

前述したように、漱石の関連要素を多く取り入れた『女のいない男たち』においては、明示的に『三四郎』、『こころ』が出された一方、暗示的にも前述の『彼岸過迄』、『行人』[25]が隠されている。一

---

[24] 「毎日新聞村上春樹報道」
http://sp.mainichi.jp/feature/news/20150501mog00m040004000c.html(2015年5月12日閲覧)。村上春樹が言うには「木野は奥さんに対して、怒りを持たなくてはいけない。本当に怒りをもって、本当に悲しむこと。それを通して木野はもう一度、再生してくる」ことで、「ネガティブなものに対抗するためには、ポジティブなものを自分で打ち立てなくてはいけない。そのためにはネガティブなものをはっきり見なくてはいけない」という。ただし、5月15日以後、閉鎖された。

[25] 松家仁之によるロングインタビュー(2010)「特集村上春樹ロングインタービュー」『考える人』NO33新潮社P62では、「夫婦における宗教性と聞いて思い浮かべるのは、夏目漱石の小説の夫婦像ですね。『門』はもちろんそうだけれど、『彼岸過迄』、それから『行人』、『こゝろ』、みんな夫婦が中心の設定です」とある。

airiti

度に『女のいない男たち』の中に揃って漱石の後期三部作を、村上春樹が取り入れたことは、珍しいであろう。この『彼岸過迄』、『行人』、『こころ』と言った後期三部作は、石井和夫によって、「男の嫉妬三部作」[26]と呼ばれていることは記憶に新しい。

漱石文学の中で、『彼岸過迄』ほど、「嫉妬」の言葉自体が頻出した作品はない。『彼岸過迄』は序文「彼岸過迄に就て」を除き、「風呂の後」、「停留所」、「報告」、「雨の降る日」、「須永の話」、「松本の話」、「結末」の 7 篇によって組み立てられた作品である。今までの『彼岸過迄』に関する論文でも、聞き手の敬太郎に、「世の中と接触するたびに内へとぐろを捲き込む性質」[27]（「松本の話」一 P299）を持つ須永が語った千代子との間柄には、「嫉妬」[28]に絞った論究が多く見られ、「〈嫉妬〉という感情を再検討することで浮かび上がるのは、『彼岸過迄』の構造面と内容面とを有機的に結びつける糸である」[29]とし、「嫉妬」による作品全篇の統一性が図られるという伊藤かおりの説が示唆的である。また、誰よりも嫉妬深い男の須永は、恋のライバル相手の高木が現れてくると、嫉妬の心理を明快に解析した岸田秀の説いた「己惚れ」[30]、「欲望の対象を貶める」[31]、「すっぱいぶ

---

[26] 石井和夫（1993）「彼岸過迄」『國文學解釈と教材の研究』第 39 巻 2 号学燈社 P147 では、漱石の「後期三部作」と言われた『彼岸過迄』、『行人』、『こゝろ』を「男の嫉妬三部作」としている。

[27] 須永の性質が偶然にも『生きるよすがとしての神話』P120 で触れた蛇の様子と類似している。「「とぐろを巻いたもの」、すなわちヘビを意味しています。このヘビは、七つの肉体中心の最下位の中心で眠っていると考えられています。一般的に、東洋の神話ではヘビは死から脱出する活力の象徴とされています。（中略）肉体の七つの中心のいちばん下の部分で、ヘビがとぐろ巻いて眠っているときは、ほかの六つの中心は不活性のままです」とある。

[28] 無署名（1980）「新刊批評須永の話」『彼岸過迄』序」竹盛天雄編『別冊國文學夏目漱石必携』學燈社 P109（初出、1914『帝国文学』二十の十一）では、いち早く「嫉妬」を主題として「須永の話」を見ていた。石井和夫（1993）「彼岸過迄」『國文學解釈と教材の研究』第 39 巻 2 号学燈社にも、佐藤泉（2002）『漱石片付かない＜近代＞』日本放送出版協会にも同じ姿勢が見られる。

[29] 伊藤かおり（2013）「期待される男――夏目漱石『彼岸過迄』論」『日本近代文学』第 89 集日本近代文学会 P44

[30] 同前掲岸田秀書 P213

airiti

どうの論理」[32]の形で、須永が「嫉妬」の悪あがきとして千代子を強く貶めている。須永の嫉妬心理を分析したことにより、須永が明確に言った「恐れない女と恐れる男」(「須永の話」十二 P232)の構図が『彼岸過迄』では一層浮き彫りにされた[33]。

『行人』では、妻の直に対して、「何うあつても女の靈といふか魂といふか、所謂スピリツトを攫まなければ満足が出來ない」(「兄」二十一 P468)と切に求めている夫一郎が、妻と弟二郎との「肉體上の關係」(「兄」二十四 P479)を憶測し、妻直の「貞操を試す」(「兄」二十四 P476)ために、「二人で和歌山へ行つて一晩泊つて呉れゝば好いんだ」(「兄」二十四 P477)と二郎に勧めた。この一郎の非常識に近い行動を動かすものは、前述の岸田秀が下した「自分の所有するものを奪い取られたのではないかと疑われるときの感情」[34]である嫉妬が強く作用している。

「私」という人物を語り手とした「上先生と私」、「中両親と私」、そして「先生」という人物を語り手とした「下先生の遺書」によって『こころ』が出来た。いずれも第 1 人称の視点から過去のことを語った形を採っている。三角関係に置かれた「先生」、「御嬢さん」、「K」が主に「下先生の遺書」で語られている。以下「下先生の遺書」重要事項を見てみよう。K が養父母を騙すことが発覚されて勘当された後、経済の支えを失った K を一緒に下宿で暮らすように誘った「先生」が「蔭を廻つて、奥さんと御嬢さんに、成るべく K と話すしをする様に頼みました」(「下先生の遺書」二十五 P209)。しかし、四人で暮らしているうちに、「K と宅のものが段々親しくなつて行く

---

[31] 同前掲岸田秀書 P252
[32] 同前掲岸田秀書 P252
[33] 詳しくは、曾秋桂(2005)「『彼岸過迄』の二人の母—須永にとっての「母なるもの」と「嫉妬」」『淡江外語論叢』第 6 期 pp.15-42 淡江大学外国語文学院を参照されたい。
[34] 同前掲岸田秀書 P203

airiti

のを見ているのが、餘り好い心持ではなかつたのです」(「下先生の遺書」二十七 P216)と、「先生」が思うようになった。K と二人で夏休みの旅行から帰ってきた暮れ頃に「御嬢さんに対する切ない恋を打ち明けられた」(「下先生の遺書」三十六 P237)「先生」が、その後 K の恋の悩み相談をされた時に、K が常に信念に持つ「精神的に向上心のないものは、馬鹿だ」(「下先生の遺書」四十一 P250)という言葉で K に反撃した。さらに、その一週間後、K を出し抜き、「奥さん、御嬢さんを私に下さい」(「下先生の遺書」四十五 P258)と、「お嬢さん」との結婚を申し込んだ後、「おれは策略で勝っても人間としては負けたのだ」(「下先生の遺書」四十八 P266)と「先生」が反省もしたが、結局 K がその晩で自殺した。最後、「明治の精神が天皇に始まって天皇に終つたやうな気がしました。最も強く明治の影響を受けた私どもが、其後に生き残っているのは必竟時勢遅れだ」(「下先生の遺書」五十五 P285)と言い残し、自殺した「先生」だが、K と「先生」の 2 人の自殺については、荒井洋一が「嫉妬が引き起こすといわれる「自殺」も「他殺」も、私かも見ると、決して悲劇でも何でもなく、誤解と推論の間違いからもたらす、全く不要な蛮行にすぎない」[35]と見ている。とはいえ、「先生」にして見れば、「今から回顧すると、私の K に対する嫉妬は、その時にもう十分に萌していたのです」(「下先生の遺書」二十七 P216)、「私は今でも決して其時の私の嫉妬心を打ち消す気はありません」(「下先生の遺書」三十四 P232)と、「私」に残す遺書を書く時点でも、自分の持つ嫉妬に深く気づいていた。こうして見れば、「先生」が使った策略を駆動させたのは、男の嫉妬に他ならない。

さて、漱石の嫉妬物語群に関連する要素を多く取り入れて創作した村上春樹の作為を、今度はキャンベルの『神話の力』に密着させ

[35] 荒井洋一(2010)「夏目漱石の『こころ』における嫉妬の構造(fulltext)」『東京学芸大学紀要人文社会化学系』Ⅱ61 東京学芸大学学術情報委員会 P224

airiti

て考えてみよう。

キャンベルは、かつて「神話」を「いま生きているという経験」[36]と定義し、「人間生活の精神的な可能性を探るかぎ」[37]だと述べている。漱石関連の要素を多く取り入れて創作した村上春樹が漱石を「神話」(いま生きているという経験・人間生活の精神的な可能性を探るかぎ)のような存在として捉え、その「神話」の持つ力を現代に再現しようとしたと見られる。漱石が生きていた 20 世紀始めの明治時代と村上春樹が盛んに創作している 21 世紀の平成時代とは、時空こそ大きく違っている。しかし、漱石文学にある「恐れる男と恐れない女」の構図は、時空を超えて、漱石文学の一読者である村上春樹の文学においても、男の持つ嫉妬心の共通項として引き継がれている。漱石文学の嫉妬物語群を読んで記憶し、覚えた共感を、村上春樹は「木野」、そして『女のいない男たち』に再構築したと見られよう。二人を結んでいるのは、正にキャンベルの著作『神話の力』の書名に因んだ「神話の力」だと言えよう。

6.「木野」の蛇の持つ「両義性」の構造—結論に代えて

二項対立的な概念「～のあいだに」に位置し、常にどちらでもあるという決定不可能性を「両義性」(pharmakon)と見たデリダの説に従って、「木野」の蛇の持つ「両義性」の構造をまとめると、下図のようになるであろう。

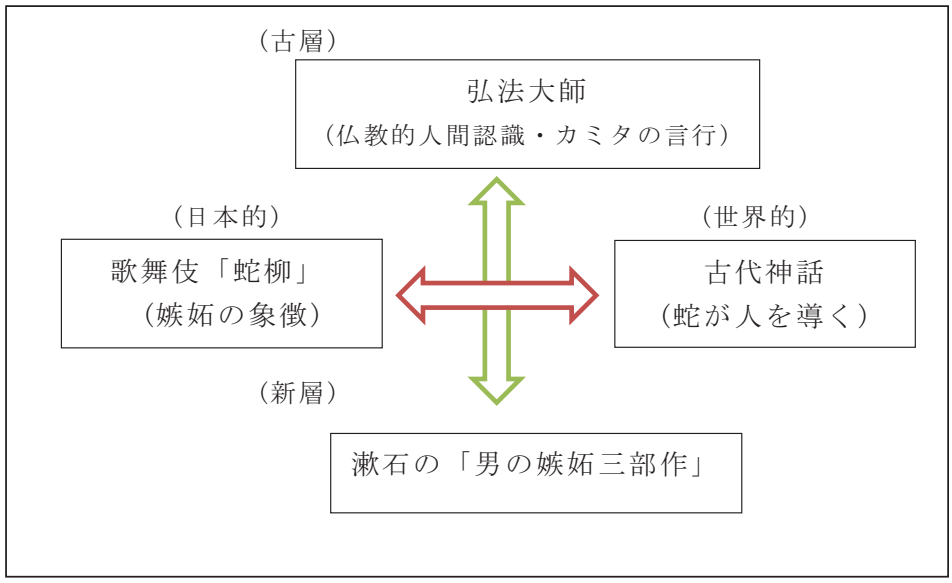
NHK 教育番組から木野の伯母が得た、蛇が「両義的」に人を善き方向にも、悪き方向にも導くという古代神話の知識を、木野は継承した。実は、その情報源は『神話の力』、『生きるよすがとしての神話』などのジョゼフ・キャンベルの神話学の著作に求められる。しかし、古代神話だけでは、作品中の蛇と柳との関係は十分に言い尽

[36] 同前掲ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤース著・飛田茂雄訳書 P43
[37] 同前掲ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤース著・飛田茂雄訳書 P43

airiti

くせない。蛇と柳と言えば、日本の歌舞伎の「蛇柳」がまず典故として挙げられる。さらに、その「蛇柳」の典故を解き明かすと、その背後には柳にまつわる弘法大師と嫉妬の話が仕込まれていることが分かった。弘法大師の手掛かりからすると、木野に助言を与える謎めいたカミタは、実は、東京麻布の古寺「善福寺」の境内(カミタがよく言う「神様の田んぼ」)にある「柳の井戸」に関わりのある柳の化身だと解釈できる。これは今の近代的な東京の古層にある既に隠されてしまったかつて日本の文化や社会を支えていた仏教的世界とも言える。嫉妬のほうからすると、嫉妬を象徴する蛇は木野を旅に導くだけではなく、漱石の名高い男の嫉妬物語群(『彼岸過迄』、『行人』、『こころ』)がその探索において「木野」に引き継がれたことをも示している。

図　「木野」の蛇の持つ「両義性」の構造



こうして少なくとも 3 重以上(世界的古代神話と日本的歌舞伎との対比、「蛇柳」の典故そして古層の弘法大師の仏教的人間認識、新

airiti

層漱石の男の嫉妬物語群)を組み込んで重層的構造に仕上げた「木野」[38]を見ると、村上春樹が序文で「推敲に思いのほか時間がかかったこともある。これは僕にとっては仕上げるのがとても難しい小説だ」(P9)と明言したことも理解できよう。これは、加藤典洋が指摘した「不揃い」[39]と言われれば、確かにそのわざとらしさが人を面白くなくさせることもあろうが、技巧と言われれば、非常に高度なテクスト的構築のテクニックが必要な作業だと認めざるを得ない。とはいえ、このような複雑な重層的構造を見抜かない限り、実は春樹文学が描こうとしている真の対象、あるいは問題は浮かび上がってこないし、意味的な体験もできない。複雑な重層的構造の読み取りを抜きにして村上春樹作品の真価が分かるとは言い難いであろう。すべての作品がこうした重層的構成になっているとは言い難いかもしれないが、少なくとも、「木野」に限って言えば、最初から見せかけ、偽装、衒いなどと決め付けてしまうと、所詮不毛な読みに止まり、世界的古代神話に起源した「両義性」を巧みに取り入れて、東京に伝わる弘法大師の説話や日本的歌舞伎「蛇柳」の変奏に、さらに近代の夏目漱石の嫉妬物語の変奏を重ねた労作「木野」の真意を窺うことは、到底無理なことである。このように、主観に囚われずに、真摯にテキストと対面し、テキストの精読に専念して、複雑な重層的構造に置換された男の嫉妬物語として「木野」を読めば、その基

---

[38] 『女のいない男たち』に収録された「ドライブ・マイ・カー」も「木野」と同じく妻の不倫を話題にした作品である。「ドライブ・マイ・カー」の主人公家福と妻の不倫相手高槻が入った店の一つが店「木野」である。それは、店の場所、内装、野良の灰色猫などの設定から判明した。そうだとすれば、「木野」の読みが自然に「ドライブ・マイ・カー」の作品時間を左右することになる。このように、『女のいない男たち』内の作品は、一見すると無関係のようだが、作品が相互的に関係し合うことによって、「木野」の世界をさらに重層化させることにもなる。

[39] 加藤典洋(2014)「女のいない男たち村上春樹著「居心地のよい場所」からの放逐」『日本経済新聞朝刊』2014年4月27日付では、「第五作の「木野」は、そういう読者をも立ち止まらせるただならぬ力をもつ秀作であって、なぜこの短編集がかくも「不揃い」となったかをも考えさせる喚起力をひめている」とある。

airiti

底には近代という時代を描きだした漱石文学の男の嫉妬物語があることも、新たな発見になるのではないか。これこそ、小説を書く高い技法を駆使することで、時空を超えて漱石文学と対話する村上春樹の真意が込められた「両義性」の地平に相違ない。

付記：本論文は、103 年度科技部専題研究計畫(MOST 103-2410-H-032-060-MY2)による研究成果の一部分であり、淡江大学村上春樹研究センターが主催した「2015 年第 4 回村上春樹国際シンポジウム」(2015.7.25-27)で口頭発表したものを加筆、修正したものである。)

テキスト

村上春樹(2014)『女のいない男たち』文藝春秋
夏目漱石(1976・初 1966)『漱石全集』第 5 巻岩波書店
夏目漱石(1975・初 1966)『漱石全集』第 6 巻岩波書店

参考文献

(一)書籍・期刊論文（筆者名五十音順）

東浩紀(1998)『存在論的、郵便的』新潮社
荒井洋一(2010)「夏目漱石の『こころ』における嫉妬(fulltext)」『東京学芸大学紀要人文社会化学系』Ⅱ61 東京学芸大学学術情報委員会
石井和夫（1993)「彼岸過迄」『國文學解釈と教材の研究』第 39 巻 2 号学燈社
伊藤かおり(2013)「期待される男――夏目漱石『彼岸過迄』論」『日本近代文学』第 89 集日本近代文学会
加藤典洋(2014)「女のいない男たち村上春樹著「居心地のよい場所」からの放逐」『日本経済新聞朝刊』(2014 年 4 月 27)
岸田秀（1987)『嫉妬の時代』飛鳥新社
作田啓一（1981)『個人主義の運命―近代小説と社会学』岩波書店
久保田彦作編(1883)『歌舞伎の構造』紅英社
佐藤泉(2002)『漱石片付かない＜近代＞』日本放送出版協会
佐藤泰正(2001)「村上春樹と漱石―〈漱石的主題〉を軸として」『日本文学研究』36 号梅光女学院大学文学部
十八番:市川団十郎お家と狂言下』紅英堂
ジョゼフ・キャンベル著・平田武靖・浅輪幸夫監訳(1984)『千の顔

airiti

をもつ英雄上』人文書院
ジョゼフ・キャンベル著・飛田茂雄・古川奈々子・武舎るみ訳(1996)『生きるよすがとしての神話』角川書店
ジョゼフ・キャンベル著・飛田茂雄訳(1996)『時を超える神話』角川書店
ジョーゼフ・キャンベル&ビル・モイヤース・飛田茂雄訳(2011・初2010)『神話の力』早川書房
曾秋桂(2004)「『行人』の再読―夫婦と女性の生き方のもう一つの可能性への示唆―」『台湾日本語文学学報』19 台湾日本語文学会
曾秋桂(2005)「『彼岸過迄』の二人の母―須永にとっての「母なるもの」と「嫉妬」」『淡江外語論叢』第 6 期淡江大学外国語文学院
曾秋桂(2005)「『行人』の封印――隠蔽された「ジョコンダに似た怪しい微笑」『台湾日本語教育論文集』第 8 号台湾日語教育学会
無署名 (1980)「新刊批評須永の話」『彼岸過迄』序」竹盛天雄編『別冊國文學夏目漱石必携』學燈社
村上春樹(2000)「タイランド」『神の子どもたちはみな踊る』新潮社
村上春樹 (2003)『村上春樹全作品 1990～2000⑦約束された場所で村上春樹、河合隼雄に会いにいく』講談社
村上春樹(2015)『村上さんのところ』新潮社
(2010)「特集村上春樹ロングインタービュー」『考える人』NO33 新潮社

(二)ネット資料

「毎日新聞村上春樹報道」
http://sp.mainichi.jp/feature/news/20150501mog00m040004000c.html(2015 年 5 月 12 日閲覧)
「葉蕙によるインタビュー」2008 年 10 月 29 日
http://paper.wenweipo.com/2008/11/17/OT0811170005.htm (2015 年 5 月 16 閲覧)
「村上春樹公開インタビューin 京都」2013 年 5 月 6
http://www.douban.com/group/topic/37861034 (2015 年 5 月 16 日閲覧)
「村上さんのところ」2015 年 2 月 15 日「村上春樹が現代の夏目漱石である」http://www.welluneednt.com (2015 年 5 月 16 日閲覧)
http://www.weblio.jp/content/%E3%83%91%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%82%B3%E3%83%B3(2015 年 5 月 20 日閲覧)

airiti

「鈴村智久の批評空間　ソクラテスはなぜディアレクティケーを重視したのか？――ジャック・デリダ『散種』所収「プラトンのパルマケイアー」読解（２）」
http://borges.blog118.fc2.com/blogentry1679.html(2015 年 5 月 21 日閲覧)
「前から後から!」 http://fujikko92.exblog.jp/12494874(2015 年 5 月 15 日閲覧）。
http://www.kabuki-bito.jp/theaters/kabukiza/2015/05/post_87-Highlight.html(2015 年 5 月 16 日閲覧)
「ABKAI―えびかいー」
http://www.kabuki-bito.jp/news/2013/04/_1abkai.html 市川海老蔵の第 1 回自主公演（2015 年 5 月 20 日閲覧）
http://jin3.jp/otera/zenpukuji.htm、(2015 年 5 月 21 日閲覧)
http://jin3.jp/otera/zenpukuji.htm(2015 年 5 月 21 日閲覧)
http://deepazabu.com/ml/mukasi/mukasi.html(2015 年 5 月 24 日閲覧)
「弘法大師の誕生と歴史」
http://www.koyasan.or.jp/shingonshu/kobodaishi.html (2015年5月 21 日閲覧)

References（アルファベット順）

Azuma,H.(1998)*Sonzaironteki,Yubinteki*. Shinchosha, Japan.
Arai,Y.(2010)*Natsume souseki no "Kokoro"niokeru Shitto no kozo*. Tokyogakugeidaigakukiyo Jinbunshakaigakukei, Ⅱ 61.Tokyogakugeidaigaku Gakujyutsujyohoiinnkai.
Ishii, K.（1993）*Higansugimade*. Kokubungaku Kaisyaku to kyozai no kenkyu,39,NO2. Gakutosha, Japan.
Ito,K.(2013)*Kitaisareru otoko:Natsume soseki"Higansugimade ron*. Nihonkindaibungaku,NO89. Nihonkindaibungakukai.
Joseph Campbell(Trs.)Hirata,T.&Asayu,S.(1984)*Senno kaowo motsu Eiyu jho*. Jinbunshoin, Japan.
Joseph Campbell(Trs.)Tobita,S.,Furukawa,N.&Musha,R.(1996)*Ikiru yosugatoshiteno shinwa*.Kadokawashiten, Japan.
Joseph Campbell(Trs.)Tobita,S.(1996)*Tokiwo koeru shinwa*. Kadokawashiten, Japan.
Joseph Campbell& Bill Moyers (Trs.) (2011)*Shinwa no chikara*. Hayakawashobo,Japan.
Kato,T.(2014)*Onnano inai otokotachi Murakami Haruki"Igokochi no yoi*

airiti

basho"karano hochiku. Nihonkeizaishinbunchokan,Apr.27,2014.
Kubota,H.(Eds.)(1883)*Kabuki jyuhachiban: Ichikawa Danjyuro oie tokyogen*.Koeido, Japan.
Kishida,S.（1987）*Shitto no jidai*. Asukashinsha, Japan.
Sakuta,K.（1981）*Kojinsyugi no unmei: Kindaisyosetsu to syakaigaku*. Iwanamishoten, Japan.
Sato,Y.(2001)*Murakami Haruki to soseki*:"Sosekitekisyudai" wojikutoshite.Nihonbungakukenkyu,NO36,Baikojyogakuin daigaku.
Sato,I.(2002)*Soseki:katazukanai* "Kindai". Nihonhososhuppankyokai,Japan.
So,S.(2004)"*Kojin"no saidoku:Fufu to jyoseino ikikatano mouhitotsuno kanouseiheno shisa*. Taiwannihongobungakuhou,NO19. Taiwannihongobungakukai,Taiwan.
So,S.(2005)"*Higansugimade"no futarino haha*:Sunagani totteno "Hahanarumono"to"Shitto".Tankogaigoronso,NO6. Tankoudaigakugaikokugobungakubu.
So,S.(2005)"*Kojin"nofuuin:Inpeisareta "Jokondani nita ayashii bishop"*Taiwannihongokyoikuronbunshu,NO8.Taiwannichigokyoikuga kkai.
Shinvhosha(2010)*Tokushu Murakami Haruki ronguintabyu*. Kangaeruhito,NO33. Shinchosha,Japan.
Murakami,H.(2000)*Tairando.Kamino kodomatachwa minaodoru*. Shinvhosha,Japan.
Murakami,H.（2003）*Murakam Haruki zensakuhin1990～2000,* Vol.7 :Yakusokusareta bashode　Murakami Haruki, Kawai hayao ni ainiiku. Kodansya,Japna.
Murakami H.(2015)*Murakamisanno tokoro.Shinchosha,Japan*.
Mushomei. Shinkanhihyo Sunaga no hanashi. Higansugimade Jo. In Takemori,T.　（1980）*Bessatsu Kokubungaku Natsumesouseki Hikkei*. Gakutosha, Japan

※2015 年 9 月 3 日原稿受理、10 月 2 日審査通過